

## 令和4年度 燕市一般会計(普通会計)決算の概要

- 令和4年度の一般会計(普通会計)決算は、歳入が前年度比28億4,911万5千円増の468億6,567万6千円、歳出が24億8,884万2千円増の443億5,236万1千円で、形式収支は25億1,331万5千円となり、形式収支から翌年度繰越財源を控除した実質収支(繰越金)は前年度比3億3,850万2千円増の23億1,780万7千円となりました。
- 実質収支の増減を表す単年度収支から財政調整基金の積立・取崩を加減した実質単年度収支は、前年度比5億1,543万円減の7億2,541万1千円となりました。
- 財政調整基金残高は、前年度末から3億8,690万9千円増の35億7,097万8千円となっています。

区 分	令和4年度	令和3年度	比 較	歳入歳出の主な増減内訳
歳 入	468億6,567万6千円	440億1,656万1千円	+ 28億4,911万5千円	<b>【歳入】</b> 寄 附 金 + 10億6,189万7千円 繰 入 金 + 7億5,922万3千円 繰 越 金 + 7億2,104万2千円 県 支 出 金 + 5億1,853万1千円 市 税 + 4億6,571万9千円 国庫支出金 ▲ 5億9,647万円  <b>【歳出】</b> 投資的経費 + 13億1,843万8千円 物 件 費 + 10億2,470万2千円 補 助 費 等 + 6億6,620万3千円 積 立 金 + 3億8,312万円 扶 助 費 ▲ 10億7,574万1千円
歳 出	443億5,236万1千円	418億6,351万9千円	+ 24億8,884万2千円	
形式収支	25億1,331万5千円	21億5,304万2千円	+ 3億6,027万3千円	
翌年度繰越財源	1億9,550万8千円	1億7,373万7千円	+ 2,177万1千円	
実質収支(繰越金)	23億1,780万7千円	19億7,930万5千円	+ 3億3,850万2千円	
単年度収支	3億3,850万2千円	6億 935万8千円	▲ 2億7,085万6千円	
積立金+繰上償還	29億7,844万5千円	26億5,793万3千円	+ 3億2,051万2千円	
積立金取崩額	25億9,153万6千円	20億2,645万円	+ 5億6,508万6千円	
実質単年度収支	7億2,541万1千円	12億4,084万1千円	▲ 5億1,543万円	
財政調整基金残高	35億7,097万8千円	31億8,406万9千円	+ 3億8,690万9千円	

## 【令和4年度決算のポイント】

- 令和4年度決算は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に係る経費が多額となったことに加え、物価高騰対策として各種支援を実施したことや、吉田トレーニングセンター(ビジョンよしだ)大規模改修事業の増などにより、令和2年度に次ぐ過去2番目の決算規模となりました。
- 感染症対策や物価高騰対策には国の交付金やふるさと燕応援基金を最大限活用したほか、ふるさと納税や市税収入の持ち直しによる増収、感染症の影響を踏まえた事業執行、経費節減等に努めた結果、財政調整基金に積み増しをしたうえで、実質収支(繰越金)の黒字を確保しました。

## 【令和5年度以降の財政動向】

- コロナ禍からの社会経済活動の回復が進みつつあり、市税収入に持ち直しの動きがみられる一方、人口減少対策はもとより、デジタル社会や脱炭素社会、SDGsの推進など、急速な社会環境の変化にも対応して取り組む必要があります。これらの行政需要に伴う歳出増が見込まれます。
- 令和5年度6月補正後の財政調整基金残高は、当初予算や補正予算の財源としての活用により8億7,472万3千円(令和4年度末残高比▲26億9,625万5千円)となりましたが、今後、繰越金等を活用して積み戻していく予定です。